

中期経営計画（NSR23） (2021年度～2023年度)

2021年4月27日

NSR20(18~20年度)の総括(1)

■ 数値目標は大幅未達の結果に

- ✓ 世界経済は、米中貿易摩擦を契機に減速し、さらにコロナ禍によって甚大な影響を受けた
- ✓ 20年下期より需給環境が好転するも、中期計画の目標には至らず
 - ステンレス鋼線：需要低迷によるボリュームダウンを余儀なくされた
 - 金属繊維：半導体ガスフィルター販売が在庫調整も含め受注変動に晒された

	NSR20		FY18実績		FY19実績		FY20実績
連結売上高（百万円）	46,000	×	38,760	×	34,910	×	34,108
連結経常利益（百万円）	5,500	×	3,675	×	1,999	×	2,602
連結ROS（経常利益/売上高）	10%以上	×	9.5%	×	5.7%	×	7.6%
連結ROA（経常利益/総資産）	10%以上	×	8.7%	×	4.7%	×	5.8%
連結配当性向（配当/税引後利益）	30%程度	○	30.3%	○	35.2%	○	37.0%
(連結)高機能・独自製品売上高比率	70%以上	×	60.8%	×	60.2%	×	65.5%

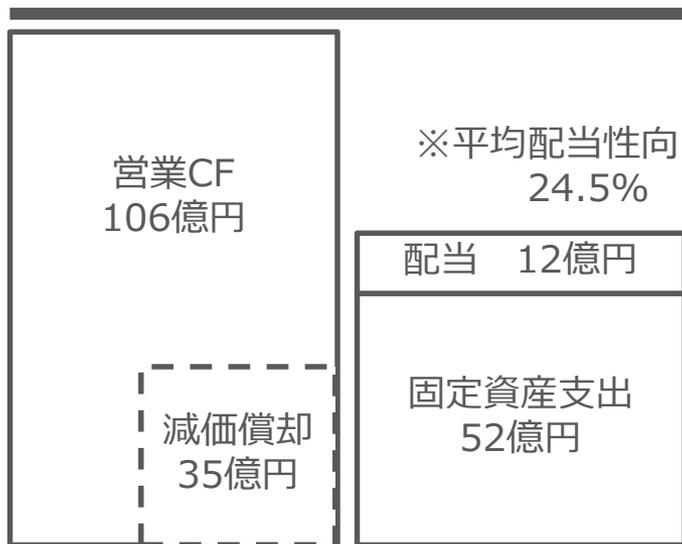
NSR20(18~20年度)の総括(2)

- 計画通りの設備投資を実施し、高機能・独自製品の上方弾力を確保
- 配当性向37%(21/3期)まで引き上げ、株主還元の充実を図った

連結キャッシュフローの比較

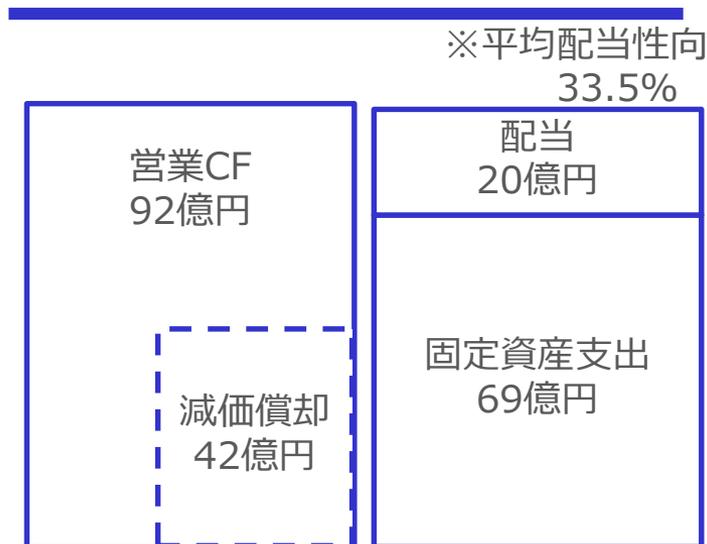
(注) 連結ベース、3年間の累計額
1株当たり配当金は株式併合調整

SR17



(億円)	FY15	FY16	FY17
営業CF	30.6	37.9	37.9
(うち減価償却)	12.1	12.4	10.2
配当	3.6	3.8	5.1
固定資産支出	17.0	13.5	21.5
配当金/株	60円	65円	120円

NSR20



(億円)	FY18	FY19	FY20
営業CF	23.8	28.1	39.7
(うち減価償却)	12.9	13.8	15.3
配当	8.6	5.8	5.2
固定資産支出	31.5	21.6	15.3
配当金/株	130円	80円	110円

自動ソルト酸洗ライン (20/12稼働)

概要：表面被膜処理の自動運転制御

目的：生産能力増強（従来比+37%アップ）、作業安全性・環境負荷軽減

製品とサステナビリティ：NO_xセンサーや耐熱ボルトなど

⇒ 自動車の燃費向上やCO₂削減に貢献



酸洗設備



酸洗作業（自動運転中）

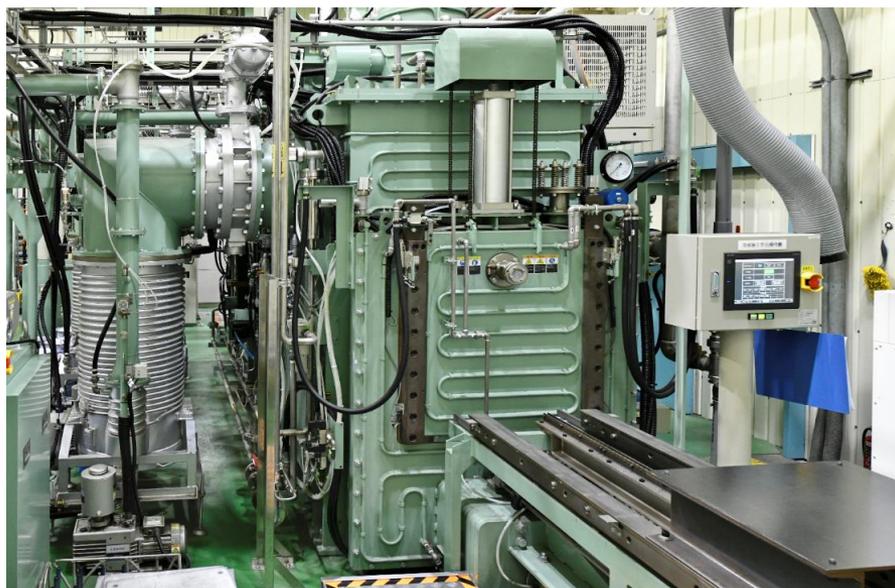
超精密ガスフィルター増産設備（クリーンルーム18/5、真空炉19/9稼働）

概要：クリーンルーム、真空炉、自動溶接装置など

目的：生産能力倍増、労働生産性の向上

製品とサステナビリティ：半導体製造装置向けガスフィルター

⇒ AI、IoT、5G、EV、DXなどイノベーションを支える



真空炉

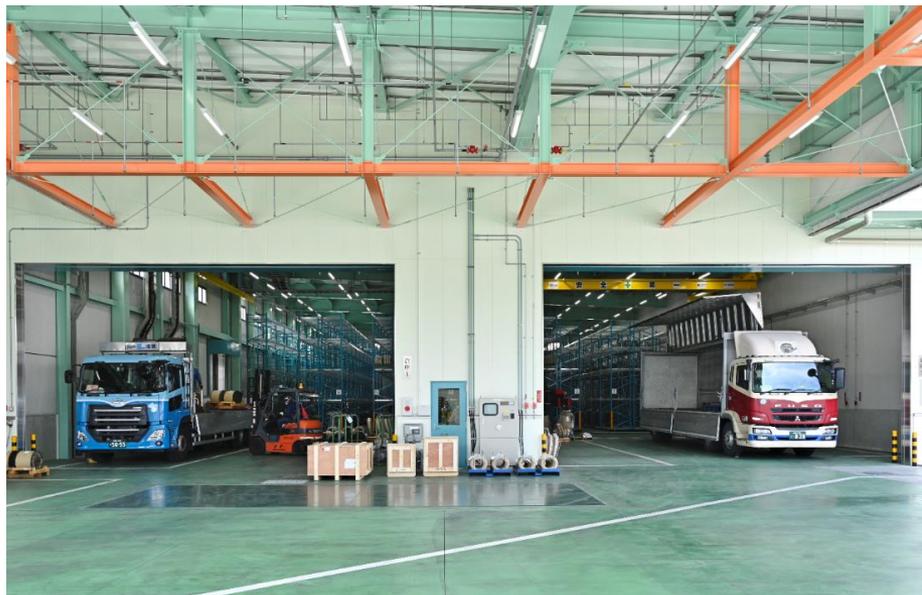


クリーンルーム

製品倉庫（21/4稼働）

概要：製品倉庫の集約化

目的：物流改善、システム化による在庫管理・識別照合の強化



新倉庫正面出入口



新倉庫内ラック

中期ビジョン

Micro & Fine Technology を追求するなかで、
未来の高機能・独自製品を生み出しつづける事を通して社会に貢献し、
E S G経営の実践によって
ステンレス鋼線No.1カンパニーの地位を継続していく

中期スローガン

日本精線リニューアル（**NSR**）継続推進
と
高機能・独自製品でサステナビリティに貢献

NSR : **N**ippon **S**eisen **R**enewal

高機能・独自製品の上方弾力確保・拡販と
持続的成長のための生産基盤強化

1. 日本精線リニューアル計画の継続・推進

- ☆ 東大阪工場 酸洗設備 第2期合理化計画の実行
 - ✓ 狙い：生産能力増強、作業安全性・環境負荷軽減

- ☆ 極細線・ばね用材の機能能力増強
 - ✓ 狙い：さらなる細径化ニーズへの対応
海外マーケット（中国・東南アジア）の取引深耕

- ☆ 金属繊維製造 リフレッシュ投資
 - ✓ 狙い：生産基盤強化、品質改善

- ☆ 事業継続マネジメント（BCM）のためのインフラ整備
 - ✓ 耐震補強
 - ✓ 高圧受電設備の整備
 - ✓ 情報システム・IT資産の運用見直し など

2. 新製品開発と新市場開拓 : サステナブル社会に貢献

- ☆ 極細線 さらなる細径化対応 (シングル μm 開発)
 - ～ 太陽光ソーラー発電効率向上

- ☆ 超精密ガスフィルター 性能向上と新製品開発
 - ～ 半導体製造装置の高性能化対応

- ☆ サステナビリティ成長分野 マーケティング
 - ✓ 情報通信 : 5G・IoT
 - ✓ 自動車 : CASE対応
 - ✓ 医療 : 低侵襲治療
 - ✓ その他 : 環境、エネルギー

3. 水素を巡る新事業の探索

- ☆ 触媒ワイヤによるMCH水素回収
 - ✓ 小型プラント実証実験
 - 再生可能エネルギーを用いた脱水素反応装置によるDSS運転

※MCH : Methylcyclohexane
※DSS : Daily Start & Stop operation

- ☆ 貯蔵・回収技術の探索
 - ✓ NH_3 、水素吸蔵合金
 - ✓ 水素分離膜



水素発生装置



水素分離膜モジュール

4. コーポレートガバナンスとコンプライアンスの充実

- ☆ 株主還元策の見直し
 - ✓ 配当性向 40%程度
- ☆ 東証市場再編、CGコード改訂への対応
- ☆ コンプライアンス体制の充実
- ☆ with/afterコロナ禍におけるテレワーク定着と働き方改革推進
- ☆ 国際会計基準導入のための体制整備
- ☆ BCM/BCP 再構築

サステナビリティ経営への取り組み（1）

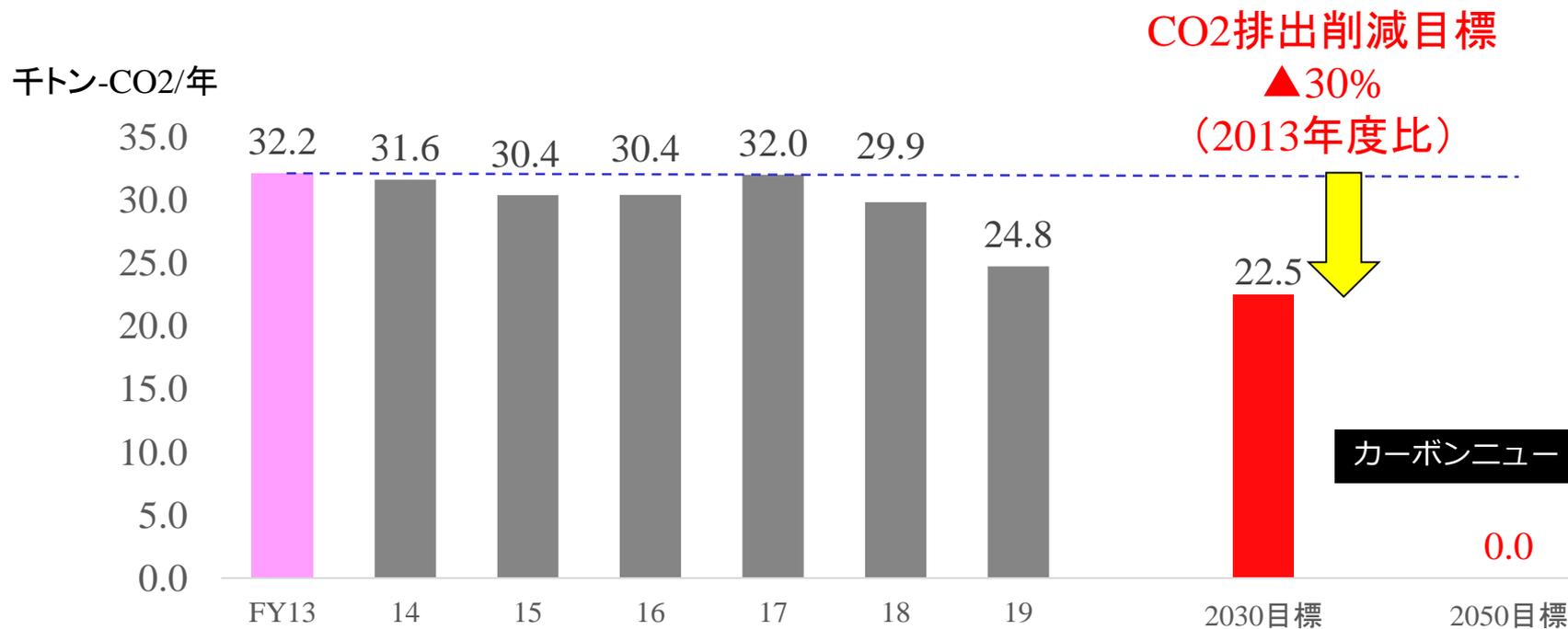
事業活動に伴うCO₂排出削減の目標を設定し持続可能な社会の実現を目指す

☆ 2030年目標 : 30%削減（2013年度比）

☆ 2050年目標 : カーボンニュートラル

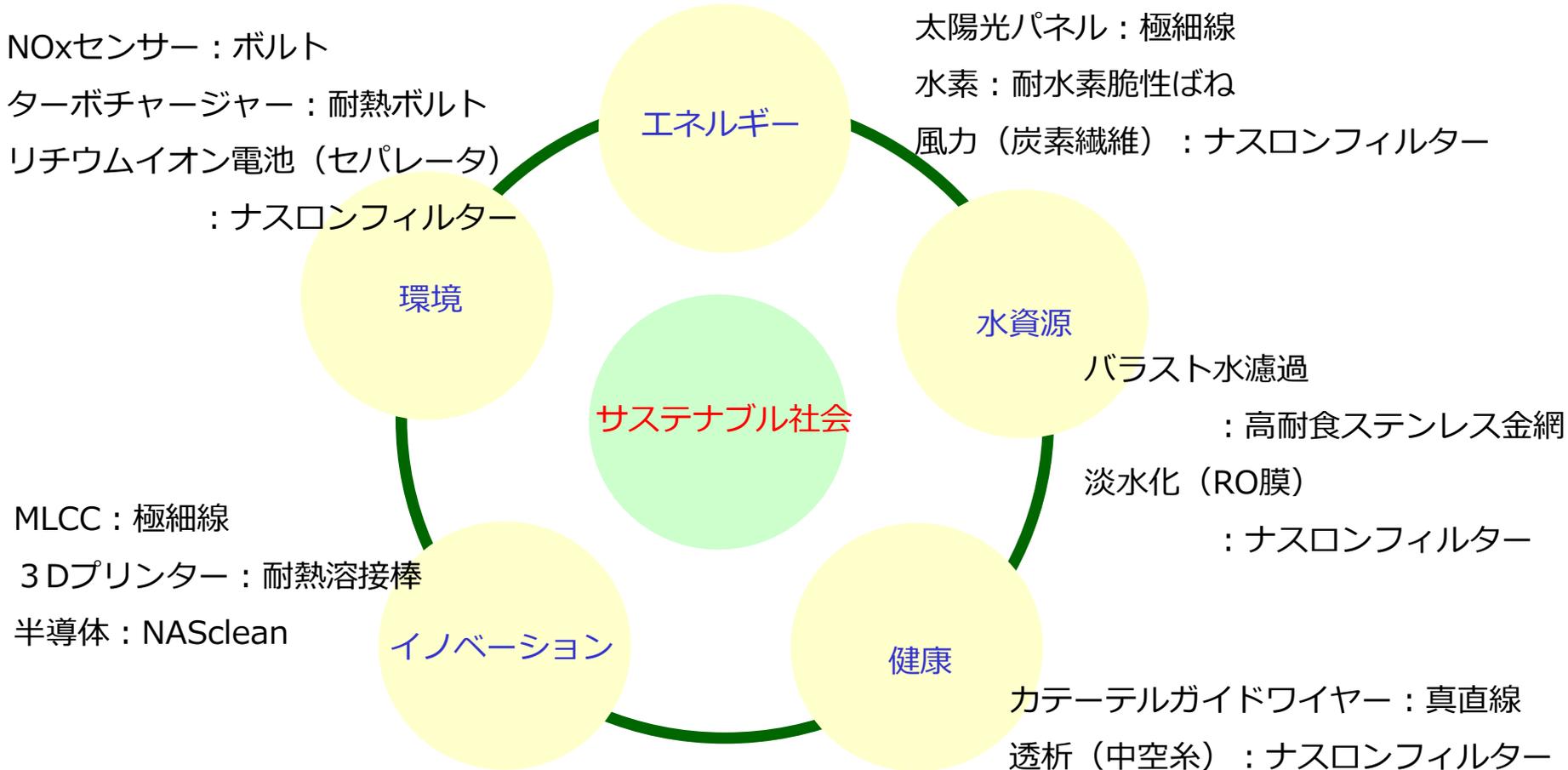
【アプローチ】

1. 化石燃料エネルギーを直接消費する設備の電化（電気炉への更新）
2. 新技術エネルギー炉の採用（水素、アンモニア、メタネーション）
3. 省エネ・生産性向上（高効率バーナー採用など）



サステナビリティ経営への取り組み（2）

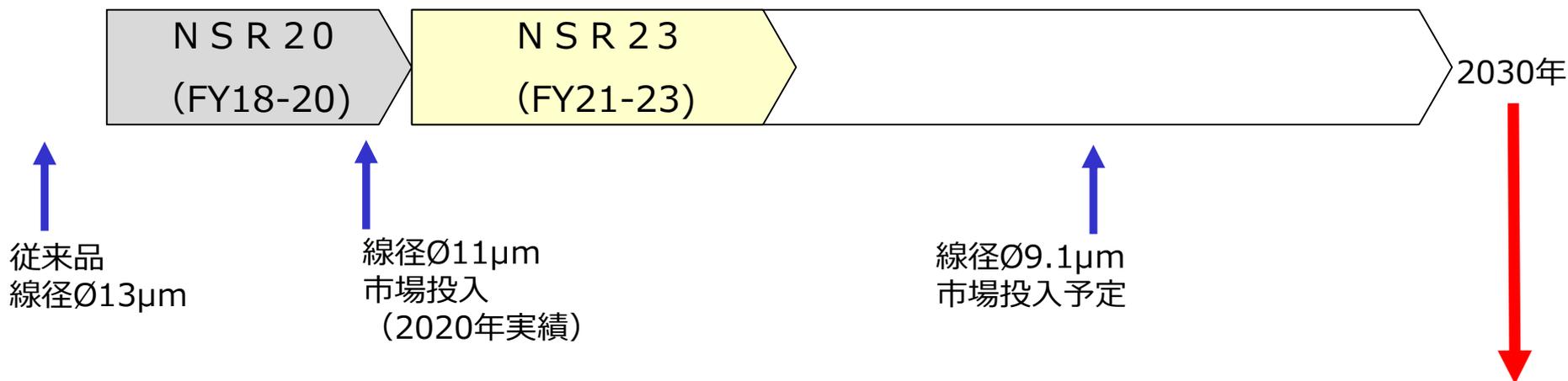
製品を通じてサステナブル社会に貢献する



サステナビリティ経営への取組み（3）

（トピックス）太陽光発電効率アップ：極細線の細径化効果

【細径化のロードマップ】



2030年時点のCO2排出削減効果：▲1,974千t／年

⇒ 当社排出量(FY2019)の**80倍**に相当

- 今後10年間（2021～2030年）で当社極細線によって製造される太陽光パネルの年間発電量（2030年時点）のうち、当社細線化技術が発電効率アップに貢献した効果(当社試算)
- 当社極細線を用いたスクリーン印刷によって製造される太陽光パネルは、世界シェア50%

（トピックス） 研究開発 ： 水素活用技術

- 将来の水素社会を展望し、「水素事業開発室」を新設

【キーとなる技術】

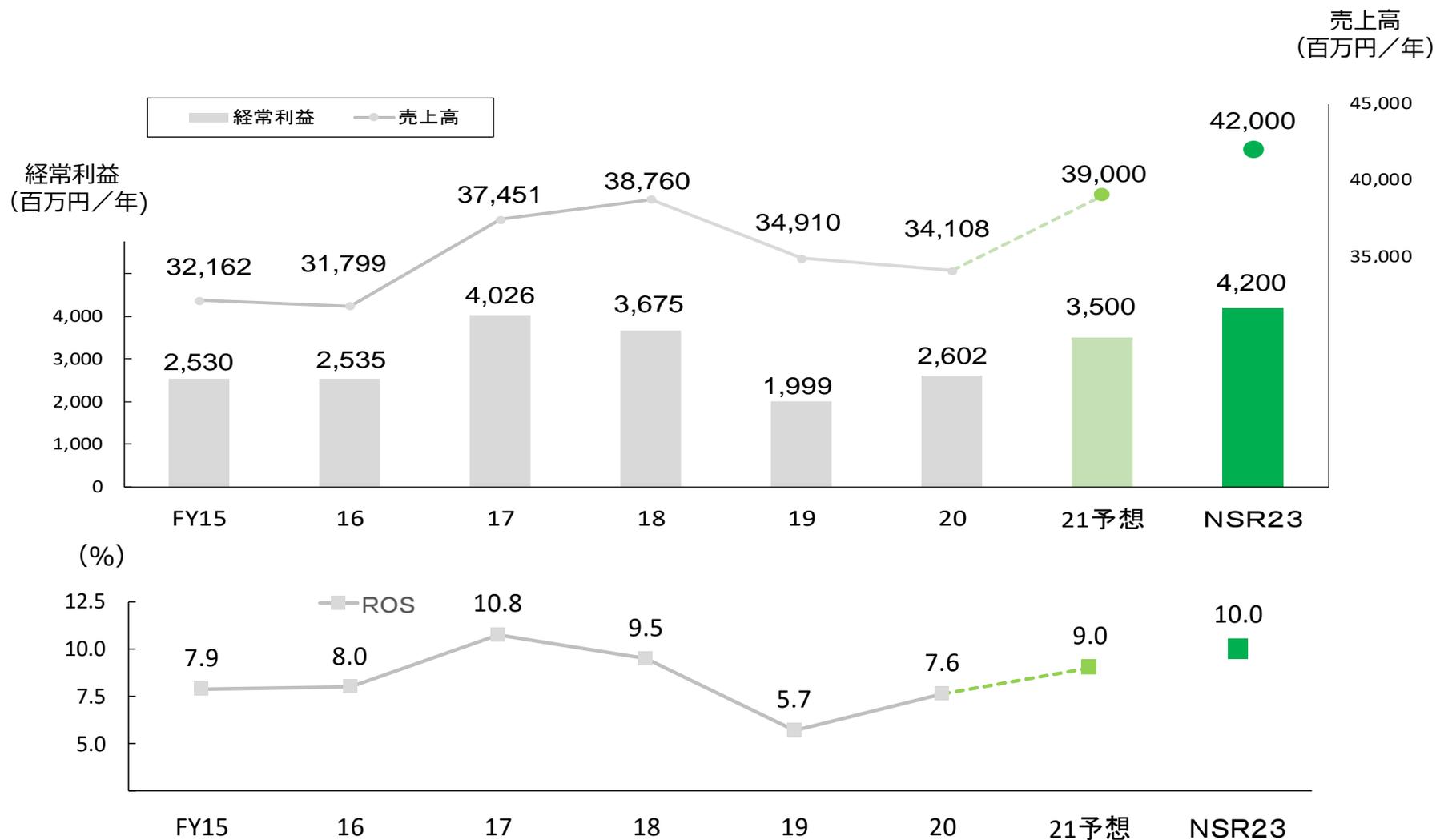
- ☆ 回収する ： 水素貯蔵回収モジュール
 - ✓ 脱水素に必要な触媒層を複合化したクラッド線の活用
 - ✓ 有機ハイドライド等の水素キャリアから脱水素が可能に
- ☆ 蓄える ： 水素吸蔵モジュール
 - ✓ 吸蔵可能な材料を複合化したクラッド線の活用
 - ✓ 安全かつ効率的な貯蔵・運搬が可能に
- ☆ 濃くする ： 水素分離膜モジュール
 - ✓ 水素のみを透過できるPd合金膜の活用
 - ✓ 水素濃度を超高純度（9N）に高めることが可能に

NSR23の経営目標

	20 実績	NSR23
連結 ROS (経常利益 / 売上高)	7.6%	10.0%以上
連結 ROA (経常利益 / 総資産)	5.8%	10.0%以上
連結 ROE (純利益 / 株主資本)	5.7%	8.0%以上
連結配当性向 (配当 / 税引後利益)	37.0%	40%程度
(連結)高機能・独自製品売上高比率	65.5%	70%以上
CO2 排出量削減率 (2030 年目標)		▲ 30% 2013年度比

連結売上高・経常利益推移(年度ベース)

■ 売上高・経常利益とも最高値更新を計画



SR 17

NSR 20

NSR 23

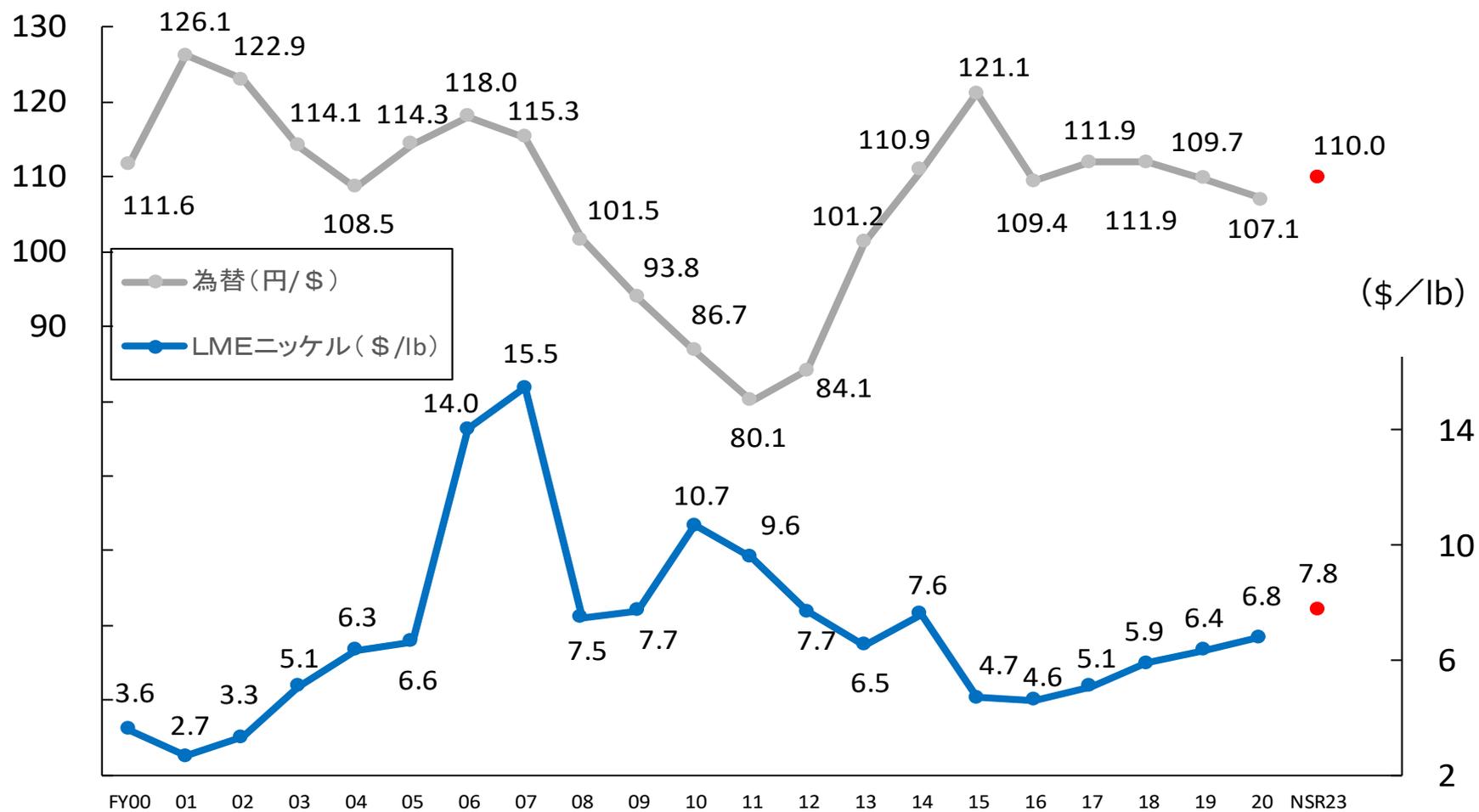
配当計画

- 配当方針を「連結配当性向**40%**程度」に引き上げ
 - ✓ NSR20目標は、配当性向30%程度

	FY15	16	17	18	19	20	21予想	NSR23
連結経常利益 (百万円)	2,530	2,535	4,026	3,675	1,999	2,602	3,500	4,200
当期純利益 (百万円)	1,621	1,771	2,814	2,635	1,395	1,825	2,450	2,940
年間配当 (円/株)	60	65	120	130	80	110	160	200
連結配当性向	23.6%	22.5%	26.2%	30.3%	35.2%	37.0%	40.1%	41.7%

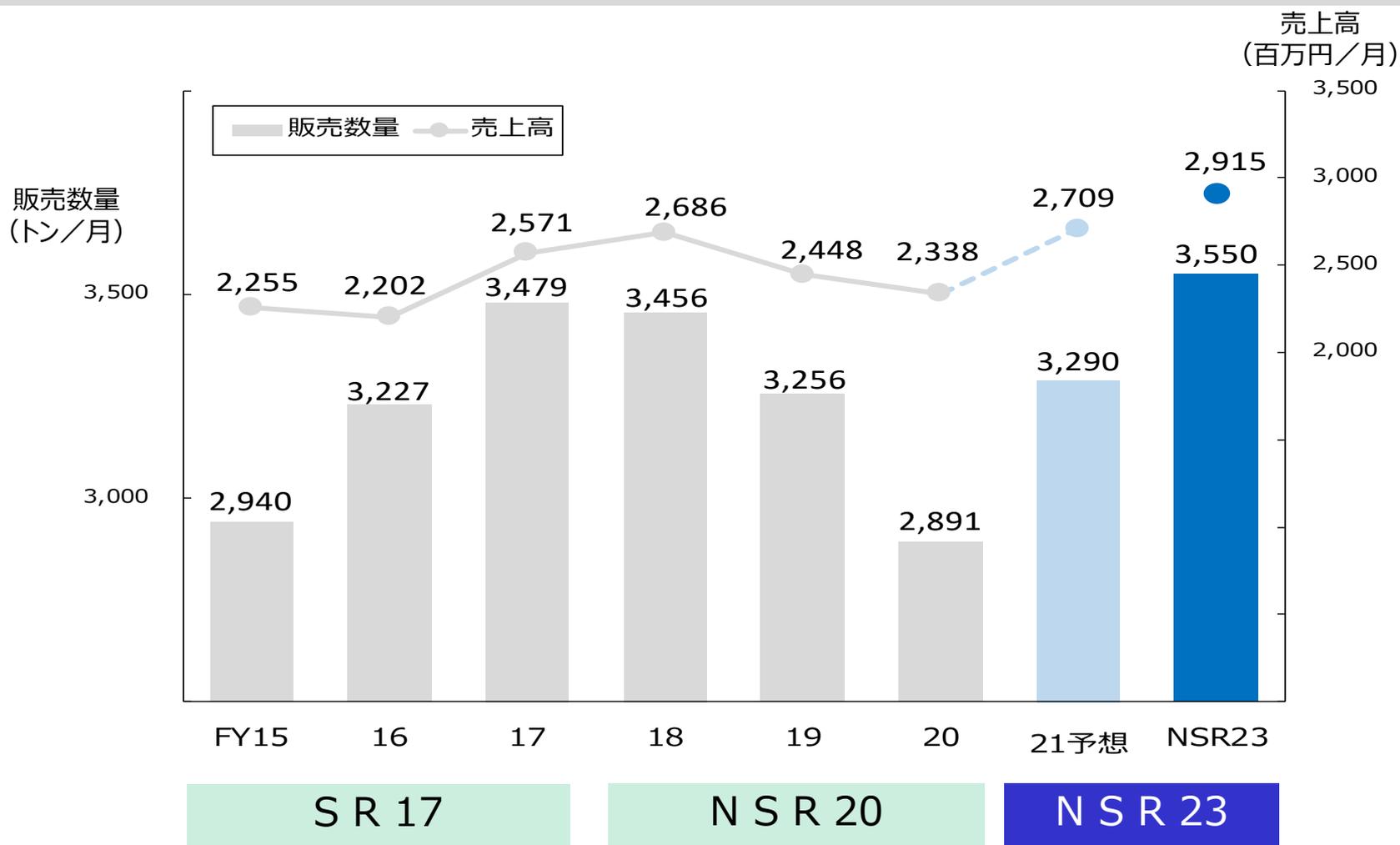
LMEニッケル価格・為替推移

(円/\$)



部門別売上高の状況： ステンレス鋼線（月ベース）

- 環境、エネルギー、5Gなどサステナビリティ成長分野への当社の高機能・独自製品の拡販と、成長性のある海外マーケットの開拓
- 高機能・独自製品の機能・能力増強と持続的成長のための生産基盤の強化
- タイ精線の機能を強化し、国内外の最適生産体制の構築

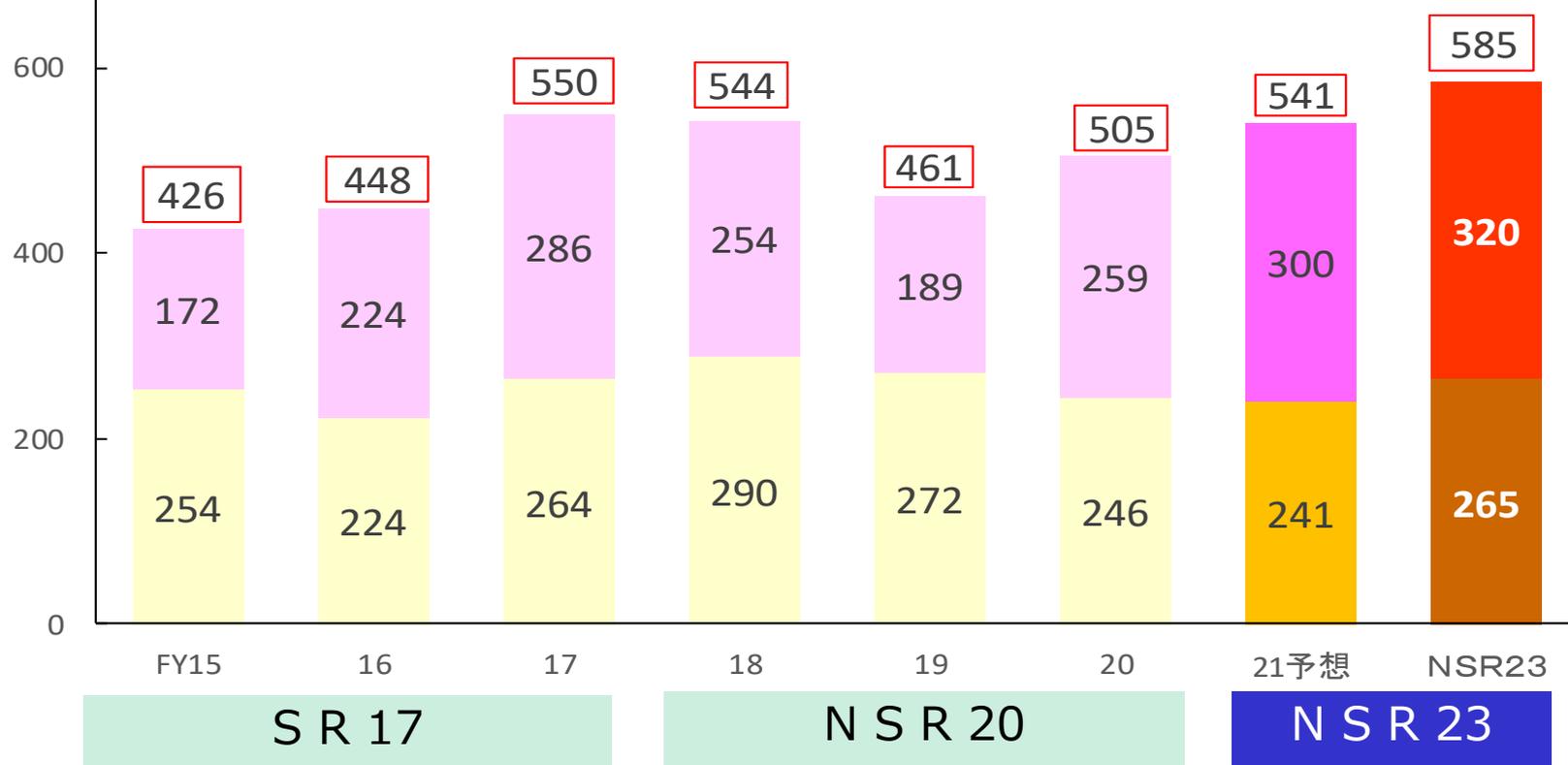


部門別売上高の状況： 金属繊維（月ベース）

- 高精度化する需要に応える商品開発
- 半導体関連市場の需要増に対し、超精密ガスフィルター（NASclean®）の安定したサプライチェーンの構築
- 中国、韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販

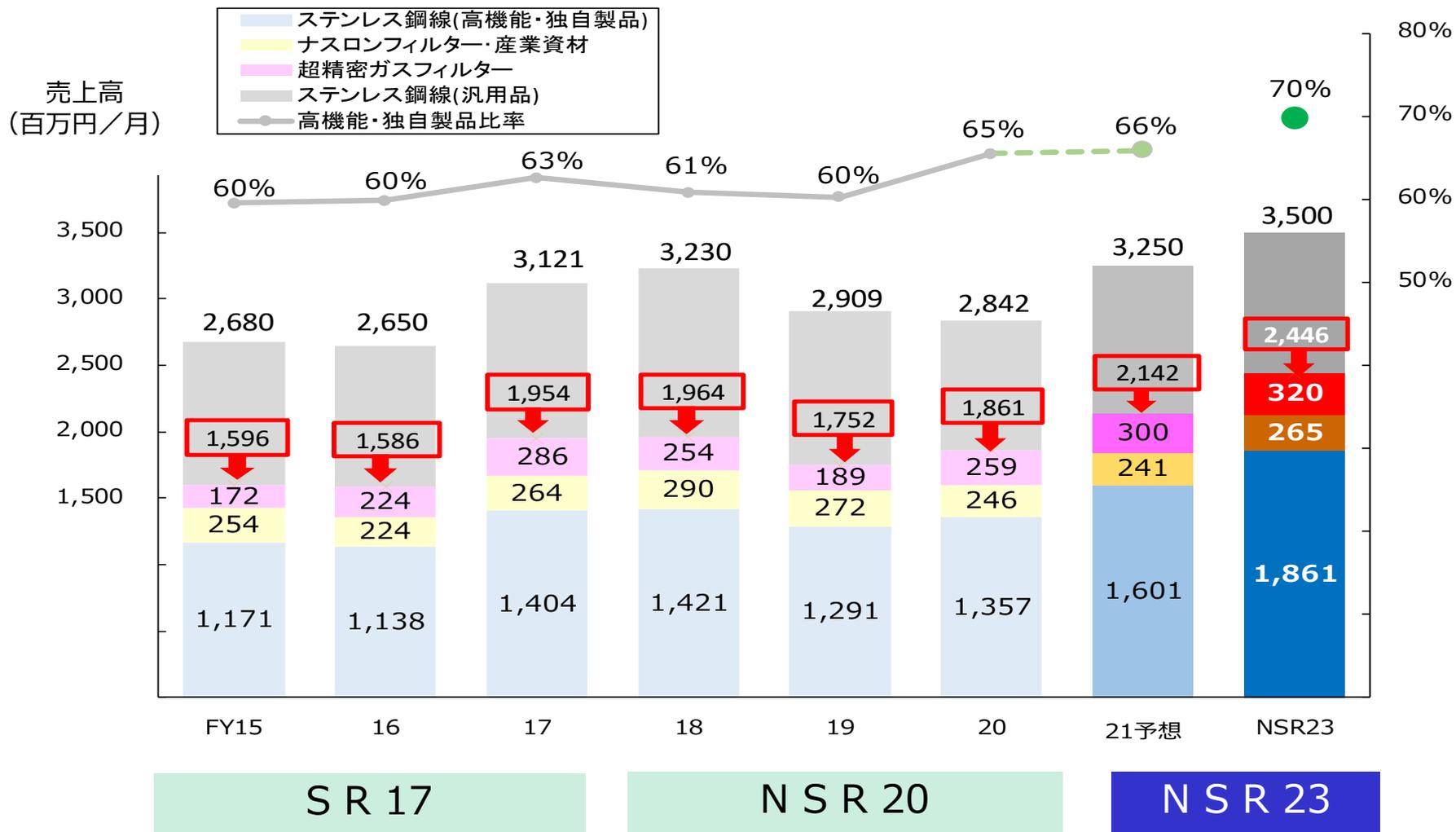
(百万円/月) ■ ナソフィルター・産業資材

■ 超精密ガスフィルター



高機能・独自製品の売上高 (月ベース)

■ 高機能・独自製品の比率を高め、収益性の高い製品ポートフォリオの構築を目指す

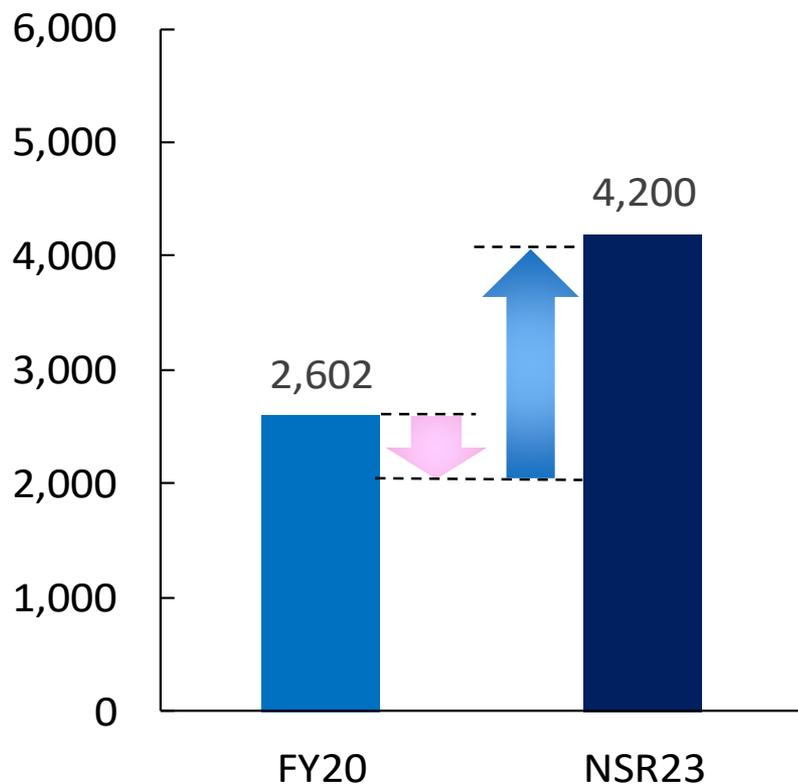


経常利益の変化要因〔20年度対比〕

【ロッド価格の前提】

	Ni (\$/lb)	為替(円/\$)
20年度	6.8	107.1
NSR23	7.8	110.0

(百万円)



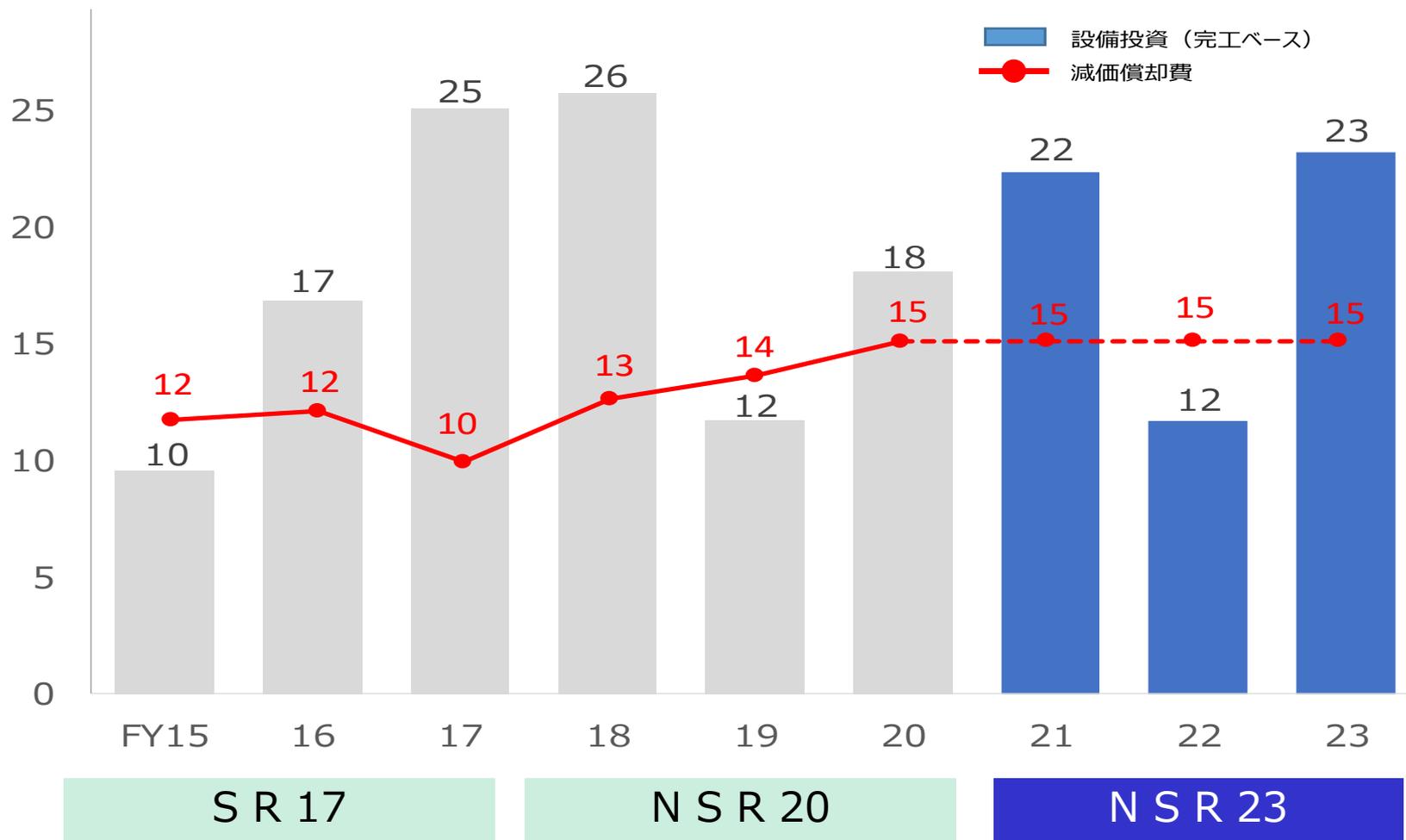
(百万円)

20年度経常利益			2,602	
対 比 変 化	営 業 損 益	Ni市況	-	+170
		数量変化	-	+1,200
		内容差	-	+800
		固定費	▲ 350	-
	合計	▲ 350	+2,170	
	営業外損益	▲ 222	-	
NSR23 経常利益			4,200(+1,598)	

設備投資の推移

- リニューアル計画の継続によって高機能・独自製品の生産基盤強化を図るとともに、E S G経営を支える設備投資にも注力

(億円)



設備投資の内訳

連結設備投資額（完工ベース）

総額 57 億円（うち ESG 関連 39 億円）

（単位：億円）

	E	S	G	その他	計
高機能・独自製品の機能能力増強	14	0	0	6	20
新商品・独自製品開発	5	1	0	1	7
生産基盤強化	8	0	10	12	30
うちBCP対応	0	0	8	0	8
うち更新保全	0	0	0	4	4
その他	8	0	2	8	18
計	27	1	10	19	57

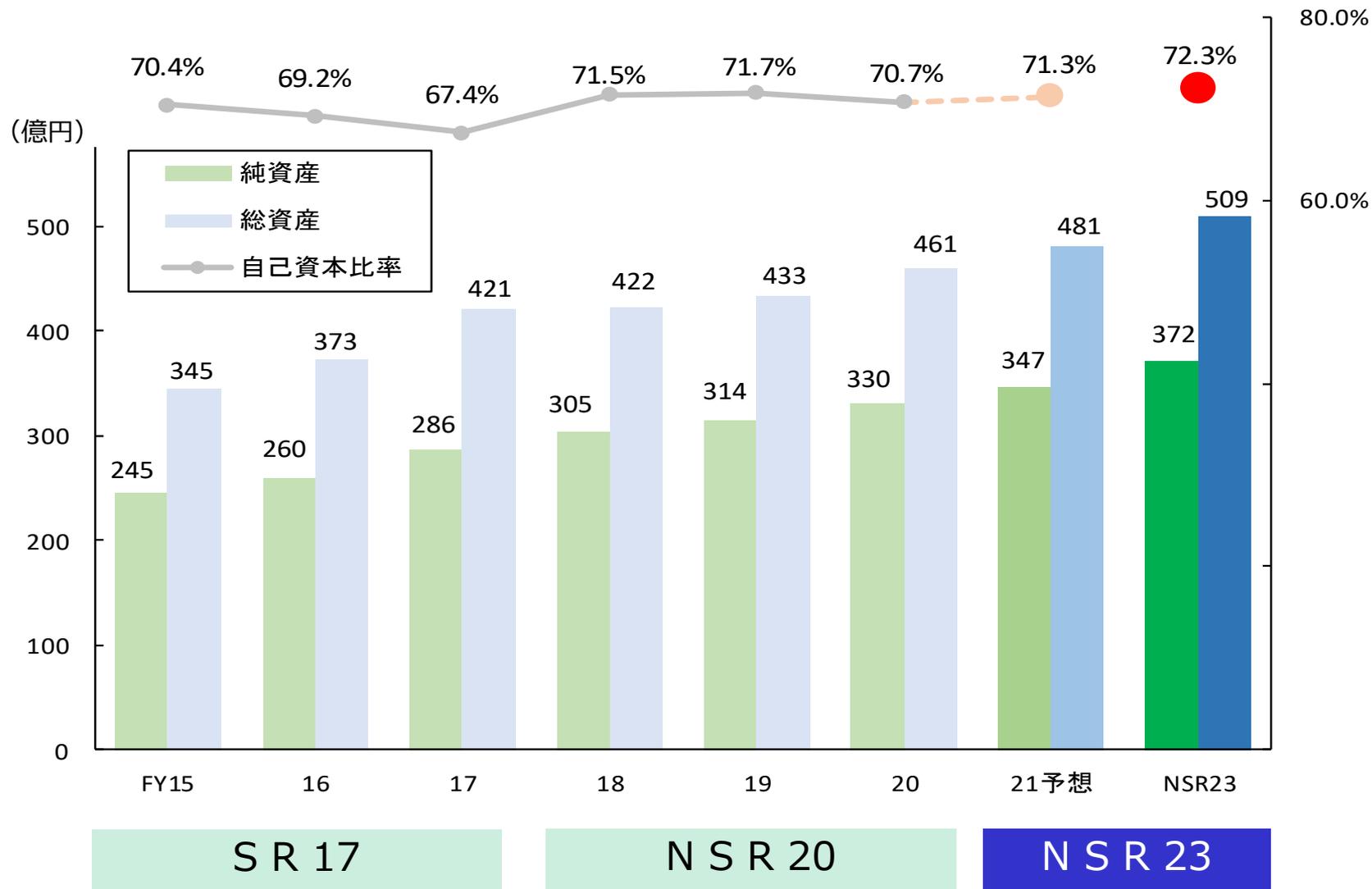
主な案件

① E 東大阪 酸洗設備 10億円
枚方新倉庫 7億円
タイ精線 ばね用設備 4億円
水素関連 3億円

② S 医療用途製品の生産設備 1億円

③ G 耐震補強ほかBCP対策 2億円
高圧受電・電気設備更新 3億円

総資産・純資産・自己資本比率





(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。